

くまのプーさん かんたんおりき

ニッティ
Nitty

× × × 取り扱い説明書 × × ×

保護者の方とお読みください。

この度は、TOMY「くまのプーさん かんたんおりき ニッティ」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。御使用前に、この取り扱い説明書をよくお読みください。また、読み終わった後は必ず保管しておいてください。



— 対象年齢8才以上 —

TOMY

トミーでは、「子供たちに安全で楽しいおもちゃと夢を」を第一に考えております。そのため、常に製品に対し研究、改良を行っており、お買い上げ時期によって同一製品の中にも多少異なるものや、パッケージの写真やイラストなどと異なる場合がございますがご了承ください。製品につきましては、万全の注意をはらって製造に当たっておりますが、万一お気付きの点がございましたら下記までご連絡ください。

宛先：株式会社トミー お客様相談室 くまのプーさん かんたんおりき ニッティ 担当
〒124-8511 東京都葛飾区立石7-9-10 TEL 03(3693)1031
〒567-0891 大阪府茨木市水尾1-1-13 TEL 0726(38)1811
※電話受け付け時間 月～金曜日（祝日・祭日を除く）10～17時



⚠ 注意（ちゅうい）

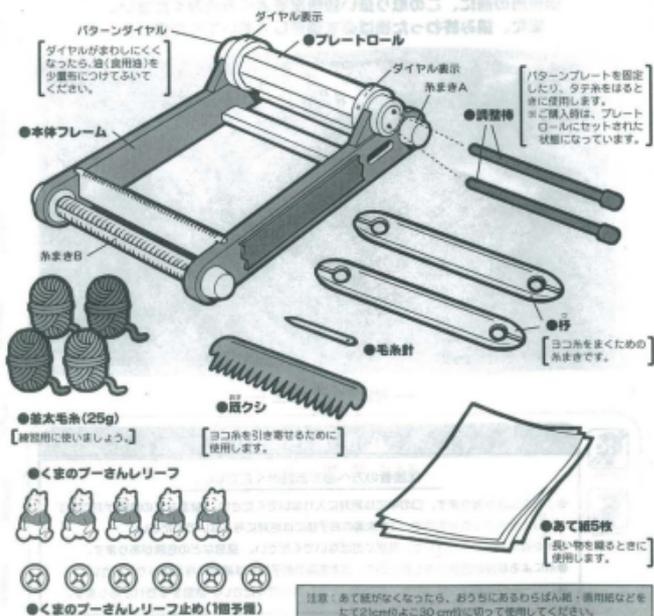
保護者の方へ必ずお読みください。

- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 鋭利の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 糸を首にかけてぶぶけたり、乱暴に遊ばないでください。窒息などの危険があります。
- 糸による事故の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ビニール袋を頭から推ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。

TOMY

おりひめの部品の名前をおぼえましょう

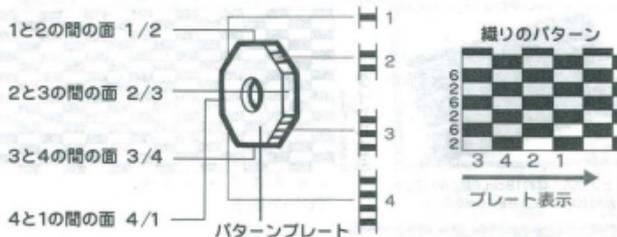
- 本体フレーム 1組
- プレートロール (パターンプレート40枚) 1組
- 枠 2本
- 箆クシ 1本
- 毛糸針 1本
- あて紙 5枚
- 調整棒 2本
- 並太毛糸 (25g) 4玉
- くまのプーさんレリーフ 5個
- くまのプーさんレリーフ止め 5個 (+1個予備)



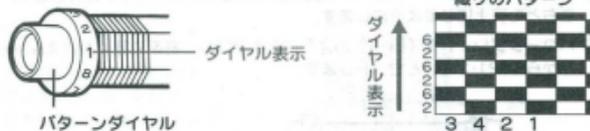
織る前の基本知識

★「おりひめ」は、プレートとダイヤル番号の組み合わせにより、たくさんの種類のパターン模様が織れます。

●プレート表示とは、パターンプレートについての番号のことです。

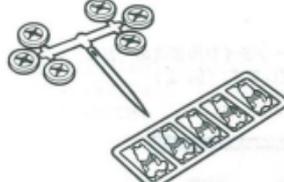


●ダイヤル表示とは、パターンダイヤルの番号のことです。



織る前の準備

●くまのプーさんレリーフ、くまのプーさんレリーフ止め、毛糸針はランナーについています。織る前にランナーからとりはずします。

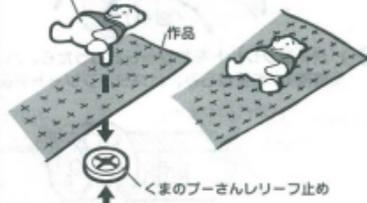


●くまのプーさんレリーフ止めは6個入っていて1個は予備になっています。

くまのプーさんレリーフの使い方

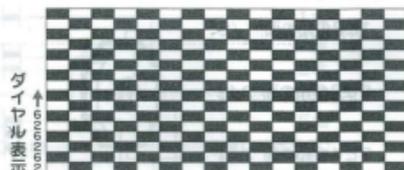
●くまのプーさんレリーフは図のようにして作った作品にフックポイントとして使ってね。

くまのプーさんレリーフ



★テーブルセンター★

まず最初は、一番基本になる平織り(13ページ・織りのパターンNO.1)で、テーブルセンターを織りながら練習してみましょう。

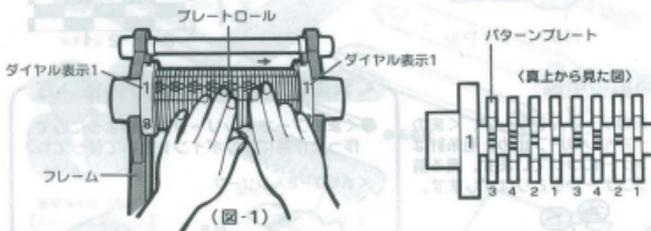


出来上り寸法: 幅約18cm・長さ約30cm
タテ糸約10g、ヨコ糸約10g使用

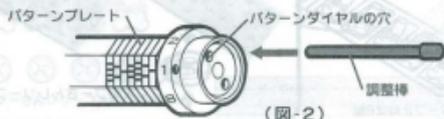
プレート表示

1. パターンプレートの準備

- 1 フレームの上にプレートロールを乗せます。そのとき、ダイヤル表示の1が左右とも真上になるようにします。
- 2 パターンプレートを(図-1)のように右手で回し、左手で軽くおさえながら、左から3421・3421とセットします。



- 3 パターンプレートをセットしおわたたら、パターンダイヤルの穴の一方に調整棒1本を差し込み、パターンプレートを固定します。(図-2)

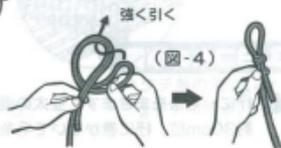


2. タテ糸の張り方

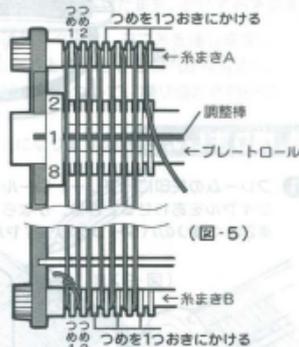
- 1 タテ糸を平均に張るために、(図-3)のようにダイヤル表示1の穴にもう1本の調整棒を差し込みます。(タテ糸は並太以上の物を使用してください。)



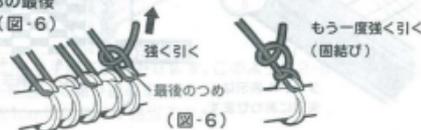
- 2 毛糸のはしを輪にして結びます。(図-4)



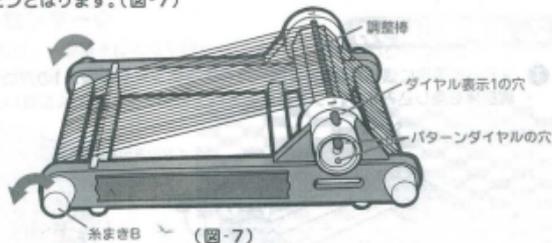
- 3 輪にした毛糸を(図-5)のように糸まきBのつめ1にかけ、次にプレートロールの左はしのミゾに入れ、糸まきAのつめ1にかけ、またプレートロールのとなりのミゾに入れ、糸まきBのつめ2にかけます。次からはプレートロール→糸まきA→プレートロール→糸まきB→プレートロール→糸まきAと、つめを1つおきに糸をかけながらタテ糸を平均にはっていきます。



- 4 全部はりおわたたら10cmぐらい毛糸をのこして、糸まきBの最後のつめに結んで止めます。(図-6)



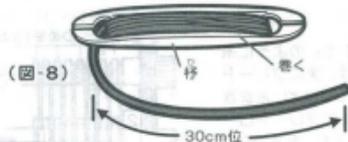
- ⑤ ダイヤル表示1の穴に差し込んである調整棒をぬきとり、パターンダイヤルのもう一方の穴に差し込みます。糸まき日を矢印の方向へまわして、タデ糸を平均にピンとはります。(図-7)



(図-7)

3. ヨコ糸の準備

- ① 杼に、毛糸をまきます。並太の場合は50回位が適当です。巻きおわったら、約30cm位、杼に巻かないで毛糸をのこして切ります。(図-8)



(図-8)

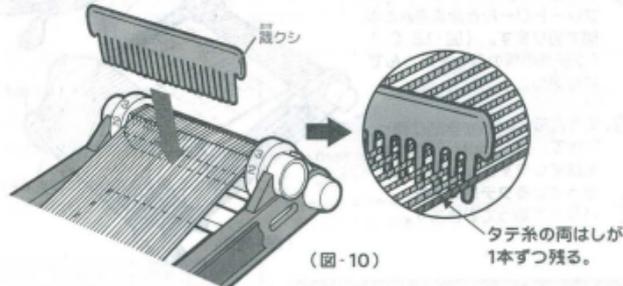
4. 織りましょう

- ① フレームの矢印に、プレートロールのダイヤル表示2をあわせませ。(図-9)ダイヤルをあわせるときは、かならず両手でまわしてください。
※2は<織りのパターン>のダイヤル表示の織り初めの数字です。



(図-9)

- ② ①の状態ではタデ糸が上下にわかれます。上下の糸の間(杼通)を右から左へ杼をくぐらせ、ヨコ糸を通します。このとき糸はしは10cm位のこしてください。
- ③ ヨコ糸を手前に引き寄せするために箄クシを使います。箄クシを差し込むとタデ糸の両はしが1本ずつ残ります。(図-10)



(図-10)

- ④ 箄クシでヨコ糸を手前に引き寄せませ。箄クシは引き寄せたまま、おいておきます。
- ⑤ ダイヤル表示を6にあわせて、左から右へ杼をくぐらせ、ヨコ糸を通します。このときヨコ糸の右はしを箄クシより3cmほど上におき、ヨコ糸がななめになるようにします。これにより、ヨコ糸にゆるみがついて、織り幅がきれいにそろいます(図-11)
(ヨコ糸を強く引きすぎると、幅がふぞろいになりますので注意してください。)



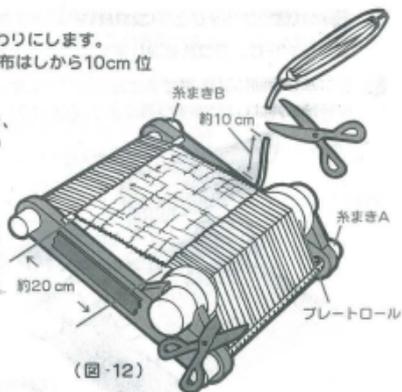
(図-11)

- ⑥ 箄クシをとり、多はったヨコ糸を手前に引き寄せませ。このように2・6・2・6……とダイヤルをあわせ、ヨコ糸を通して織り進めませ。(並太の場合、4段織って約1cmになるのが適当です。)

7 80段(約20cm)織れたら終わりにします。
織り終わった最後のヨコ糸は、布はしから10cm位
残して切ります。(図-12-1.)

8 糸まきAにかけてあるタテ糸を、
プレートロールと糸まきAとの
間で切ります。(図-12-2.)
(タテ糸の房の長さを見こんで
切りましょう。)

9 切ったあと、布を手前に持つ
てきて、糸まきBからタテ糸
をはずします。そして、つな
がっているタテ糸の輪を
ハサミで切っておきます。



(図-12)

5. 糸の始末(フリンジのつくり方)

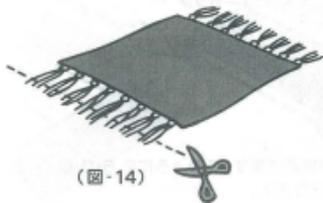
1 ヨコ糸の糸はしがでている反対側から、
4~5本ずつ束ねて結び房をつくります。
(房のつくり方は、デザインにあわせて
選びましょう。)



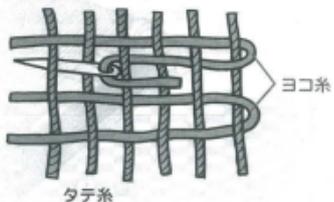
1本どり まき結び 三つ編

2 残して切った10cmのヨコ糸に毛糸針
をつけて、(図-13)のように織い
こみます。)

3 束ねた房をきれいにくしで整え、
ハサミで切りそろえます。(図-14)
これで完成です。



(図-14)



(図-13)



長いものを織るとき



★どうですか、テーブルセンターはうまく織れたでしょうか。

最初はなかなかうまくいかないかもしれませんが、だんだんじょうずになってきますから
安心してください。今度は、パターン模様を使ってマフラーを織ってみましょう。

★マフラー★

これは織りのパターンNO12で織った
ものです。

タテ糸約40g、ヨコ糸約60g用意します。
タテ糸とヨコ糸の色をかえると模様が
はつきり織れます。



出来上り寸法：幅約18cm・長さ約160cm

1. パターンプレートの準備

1 自分の好きなパターンを、13・14・15ページの織りのパターンの中から選び、
パターンプレートを設定します。そして調整棒1本を差し込み固定します。
(わからなかったら4ページを見てください。)

2. タテ糸の張り方

1 180cmの長さのタテ糸を40本用意します。(タテ糸は並木以上の物を使用して
ください。)(180cm=織り上がり寸法130cm+房の分30cm+20cm)

2 40本のタテ糸の片はしにそれぞれ結び輪をつくります。(図-15)

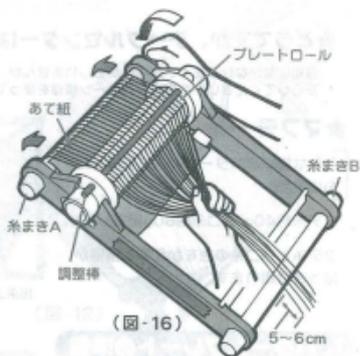


(図-15)

3 糸まきAのつめに、40本のタテ糸の輪をそれぞれ1つずつかけ、プレートロール
のミゾに入れます。そしてタテ糸が、はずれないように調整棒をダイヤル表示1
の穴に入れ、タテ糸の上に通します。(図-16)

- 4 あて紙を3枚用意します。プレートロールの下からあて紙1枚を通し、糸まきAにはさみます。このときあて紙の両はしをセロテープで糸まきAにとめると、あて紙がずれずにきれいに巻けます。

- 5 タテ糸を(図-16)のように左手でにぎり、たるんでいる糸のないように直します。糸を張ったまま、右手で糸まきAの右ハンドルを向う側へまわして、あて紙と一緒に糸を巻きとり、糸のはしが手前の糸まきBから5~6cmあまったところでとめます。(巻きとる紙がなくなったら、次の紙をつけたして巻きます。)



(図-16)

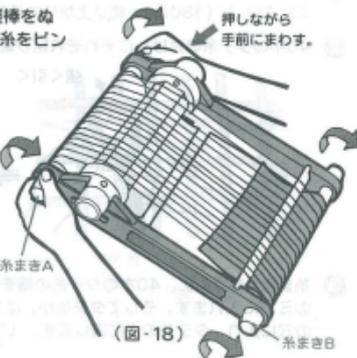
- 6 タテ糸を左から順に、1本ずつミリを通して手前に引き、糸まきBのつめに結んでいきます。(図-17)



(図-17)

- 7 タテ糸を全部はりおわたたら、調整棒をぬきとり、糸まきBを手前にまわし、糸をピンとはります。

- 8 房の部分として、タテ糸の手前から15cmを糸まきBに、あて紙をはさみながら巻きとります。このとき、糸まきAの左右を両手で押しながら手前にまわし、糸をゆるめ、糸まきBを手前にまわして、また糸をはり、これを繰り返して巻きとります。(図-18)
※糸をゆるめるときは、必ず左右のハンドルを同時に使ってください



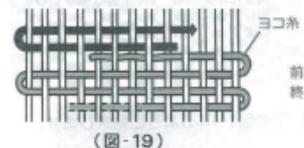
(図-18)

3. 織りましょう

- 1 枠に毛糸を巻きます。
2 ダイヤル表示を矢印にあわせて織ります。織り進むにつれて、ヨコ糸が通しにくくなるので、約15cm織るごとに、糸まきBにあて紙をはさみながら、布をまきとっていきます。これを繰り返し、540段(約130cm)織ります。(紙がたりなくなったら、糸まきAのはずれた紙を使ってください。)

4. ヨコ糸をつなぐ時

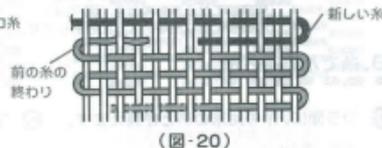
- 1 枠に巻いたヨコ糸がおわたるときは、下の図(図-19)のようにしてつながます。



(図-19)

5. ヨコ糸の色をかえる時

- 1 枠を2本使います。新しい色の糸は、前の糸のおわりと逆の方から枠を通して下の図のように織ります。(図-20)



(図-20)

6. 布の両はしをそろえる

- 1 パターンによって、(図-21)のように両はしのタテ糸にヨコ糸が通らないときがあります。そのときは両はしのタテ糸を必ず(図-22)のように上下を逆にして枠を通してください。



(図-21)



(図-22)

7. 糸の始末

- 1 房の部分としてタテ糸を15cmほど残し、ハサミで切ります。
2 タテ糸の房部分をデザインにあわせて、4~5本ずつ束ねて結び房をつくります。
3 束ねた房をくして整え、きれいにハサミで切りそろえます。(図-23)
(アイロンをあてると織り目がきれいにそろいます。)これで完成です。



(図-23)

8. フリンジにしない場合の糸の始末

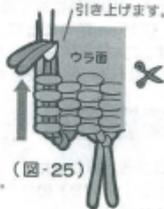
フリンジを作らない場合は、次のような方法で糸の始末をしましょう。

A. カギ針を使う方法

- 1 始末した糸が目立ちません。
- 2 市販のカギ針を使って、右図のように始末します。



(図-24) タデ糸を2本いっしょにからめます。



(図-25) 残ったタデ糸も同じように始末します。



(図-26) 余分な糸を切ります。

2本いっしょに1本どりでタデ糸を始末してから、カギ針を(図-24)のように裏に出ないようにおします。

B. 糸でとめる方法

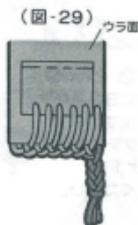
- 1 ウラ面に、糸の始末のあとが見えます。
- 2 下の図1~4のように始末します。



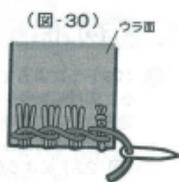
(図-27)



(2) ③、④の糸をおさえて②の糸を④の糸の下をくぐらせ、引き上げます。



(3) 同じ手順をくり返し、最後に残った3本で三つあみにします。



(4) 引き上げた糸を3~4本ひとまとめにして、木綿糸とおした針で表面に糸がでないように、かえしぬいで止めます。

(1) ①、②の糸をおさえて①の糸を2本先の③の糸の下をくぐらせ、上に引き上げます。

マフラーの出来ばえはどうか？ 模様がきれいに織れましたか？
応用編には、すてきな作品がたくさんありますので、どんどん作ってみましょう。

× 織りのパターン ×

- プレートロールの番号が、奇数・分数のときヨコ糸が通しにくくなる場合があります。そのときは、プレートロールを少し動かすとタデ糸がきれいにわかります。
- 1/2・2/3という表示はパターンプレートの1と2の間、2と3の間ということです。
- パターン織りには、並太の毛糸が一番適しています。

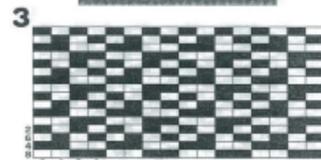


グイアル表示

3 4 2 1 → プレート表示



グイアル表示



グイアル表示

